

特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 27

ASEAN グローバルプログラム に参加して得たもの

吉田 鈴佳
Suzuka YOSHIDA
数理情報学科 2年

1. はじめに

2017年8月29日から9月7日にかけて、ベトナムのハノイ、シンガポールにて10日間のASEANグローバルプログラムに参加した。具体的なプログラムの日程を表1に記す。

表1 プログラムの日程

8月29日(火)	出国, ハノイ着
8月30日(水)	企業見学
8月31日(木) 9月1日(金)	ハノイ工業大学学生とPBL活動
9月2日(土)	自由行動
9月3日(日)	ハノイ発, シンガポール着
9月4日(月)	南洋理工大見学
9月5日(火)	講演会
9月6日(水)	自由行動
9月7日(木)	帰国

2. 参加目的

私はグローバルプログラムに参加するにあたり、以下のことを目的とした。1つ目は、「積極的に英語で現地の人と会話し、自分の英語力を知る」ことであった。現在、日本にいても外国人と接する機会は少なくない。そういった場面で、英語は必要不可欠であり、今後、英語の勉強をどのようにしていくかを知りたいと思った。2つ目は、「経済発展している2か国について深く知り、日本とどのような違いがあるのかを学ぶ」ことであった。経済発展している国の文化や特徴、なぜ日本の企業がベトナム・シンガポールに進出しているのか、それらについて知りたいと思った。

3. ベトナム企業見学

研修の初日、ベトナムに工場を設けている日本企業の一つであるTakagi、ベトナムの企業Rikkei Soft,NTQに見学に行った。3つの企業の共通点は、働いているベトナムの方の平均年齢が20代と若いことと、日本人と共同して働いていることであった。ベトナム国民全体の平均年齢も29歳であり、ベトナムの国を支えているのは多くの若者であるということが分かった。さらに、ベトナム企業2社は、アプリやウェブシステム等の開発を事業内容とし、ベトナムでもIT産業が盛んであることを知った。社会、国、人のニーズに応え、活躍している企業があることで、その国自体の経済も発展していくのだと思った。

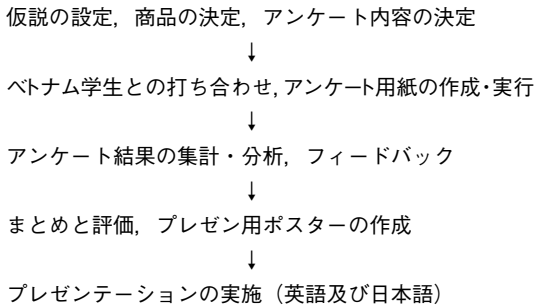
4. 講演会

研修の最終日に、シンガポールで企業されている加藤順彦さんにお話を聞いた。とてもパワフルな方で、話にすぐ引き込まれた。その中で印象に残っている言葉は、「所属する集団が自分自身を創造する」ということだ。普通ということを当たり前と思う環境でなく、何事にも一生懸命に取り組む環境に自分が所属することで、自分自身に得られるものが多いのではないかと思う。このプログラムに参加した仲間をこれからも大切にしていきたい。シンガポールがなぜ経済発展したのかについて、加藤さんから伺った話では、高学歴者を移住させながら、人口が増えたことと、ASEAN諸国の大都市がシンガポールに近い距離に位置していることであった。日本もシンガポールのように移民を受け入れる柔軟さが必要になっていくのではないかと思う。

5. PBL活動

2日間にかけて、ハノイ工業大学の学生2名、日本人学生5名の計7名をグループとしてPBL活動を行った。活動のテーマを、『ベトナムで日本発のブランドUNIQLOの商品を売る』に設定し、どの

商品をどのように工夫したら売れるかについて以下のような順序で検討した。



日差しの強いベトナムで女性向けの長袖の UV カット商品を売り，ベトナム女性のファッション情報ツールによって，売り出すことを決めた。この内容をベトナム人学生に英語で伝えることはできたものの，考えをうまく伝えられない，英語を聞き取ることさえ出来ない，といった様々なことに苦戦するとともに，ベトナム人学生の英語力や主体性に圧倒された。彼らが積極的に発言し，提案し，行動する姿に対して，同意することしか出来ない自分の無力さに自信を喪失した。1日目のアンケートでは服の色，デザイン，機能について大学内・ハノイ中心部にあるホアンキエム湖で160名ほどにアンケートを行った。こうして作業をするうちに少しずつ英語にも慣れ，そこでは積極的にベトナム人学生と会話し，協力し合えるようになった。アンケート集計の分析をもとに，2日目には①服に UV カットは必要かどうか，②どのようにして服の情報を手に入れるのか，の2点を追加でインタビューすることを決め，ベトナム人学生にも伝えることができた。その結果は，①白や黒などのシンプルな色，②UV カットなどの機能性を重視，③服の情報の入手先は主に Facebook 等の SNS であることがベトナムの特徴であると分かった。その後，約1時間という短い時間のなかで，プレゼンのポスターを完成させた。①～

③をもとに商品の企画をポスターにまとめ，プレゼンの内容とした。初めは8チーム中3チームが発表する予定だったが，ベトナム人学生のほぼ全員が発表を希望したため全てのチームが口頭発表することとなった。日本人学生はこういった場面で前に出ることを拒み，消極的であるが，ベトナム人学生は，積極性があった。「やらないより，やるほうが良い」と初めて気づかされた気がする。私も，一部英語でプレゼンをした。英語の得意でない私にとってやりたくない気持ちもあったが，ここで発表すれば，何か変わるはず，ベトナム人学生に負けない積極性を身につけたいと思い，やることを決意した。たとえ失敗しても，ここで発表したことを誇りに感じるだろう，と考えてのことだった。PBL 活動を通して，1. 何事にも主体性をもち，自ら考え，行動し，積極的になること，2. 挑戦することを恐れず，1つ1つの挑戦で今後の自分のプラスになるようにする，ということを学んだ。

6. おわりに

私は，ASEAN グローバルプログラムに参加し，多くのことを学び，感じ，自分に足りないもの，直すべきところ，自分自身を見つめなおすきっかけとなった。一番の気づきは，自分の英語力の低さだ。ベトナム人学生も日本人と同様に英語は第2言語だが，恥ずかしいくらい，何も聞き取ること，話すことができなかった。English Central のオンライン学習等を活用し，英会話に力を入れて学習していきたい。また，初めて出会った人と会話する時に，消極的になってしまうこと，さらに主体的に行動できないことも気づいた。これから，社会で働くうえでそのような機会は多いはずだ。どんなことでも積極的に取り組むことを意識し，このようなプログラム，活動があれば，参加したい。